

# 1次選考 7件選定

## しまね・ハツ・建設ブランド

土木部技術管理室は、本年度スタートした「しまね・ハツ・建設ブランド」登録制度で、4月下旬に1回目の1次選考会を行い、国土交通省など公共機関での施工実績が豊富な4件と、フィールド工事による実証実験が必要な案件3件を選んだ。実

### 3件 実証実験で評価

### プレゼン経てフィールド工事決定へ

フィールド工事の対象に選ばれたのは▽切取受付け金具「スルーサー」▽機三研テクノクリエイト(松江)▽再生砕石RCI-40(瓦、Coon)▽山建プラント機(出雲市)▽アンカー工法ラップ管使用長期保護材▽機日本海技術コンサルタンツ(六道町)で、いずれも製品、材料の種類となる。説明会は5月31日、浜田合庁▽6月2日、松江・出雲合庁で開催。各企業の開発担当者がプレゼンテーションを行う。

ことから、実証実験は省略し基準検討委員会で審査。また、1件については差し戻した。

フィールド工事については、実験での成果を2次選考会で審査し「登録推薦技術」に追加する必要がある技術の追加が必要。3段階で評価。▽ニーズとの適合▽技術の成立性▽品質と出来形に与える影響▽実施条

### 応募20件超 高い関心

1回目の選考会では、県内の建設関連企業が開発・製造した技術・工法、施工材料など8件を審査。うち4件は国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)登録済みで、公共発注機関での施工実績もある

「登録推薦技術」に追加する必要がある技術の追加が必要。3段階で評価。▽ニーズとの適合▽技術の成立性▽品質と出来形に与える影響▽実施条

件下での適応性▽活用効果。果1など評価基準に基づき、最終的に基準検討委員会で承認する。複数工事での実績が要求されるもの、完成後の追跡調査が必要なものなど、技術や製品によって登録までの期間が異なる。

建設ブランド登録制度は公共事業費の大幅削減が避けられない状況下、民間技術を公共工事に積極的に導入し、県内建設関連企業の技術開発や製品化を支援する狙い。登録技術は、県工事で活用するほか、インターネットで全国に向けて情報発信する。

3月の募集開始から技術管理室には問い合わせが殺到。第1回審査対象の8件を含め、これまでに20件を超える書類提出があり、6月上旬には2回目の1次選

証実験については、近く、発注機関を対象にしたプレゼンテーションを開催。各機関から提出されたフィールド候補工事を取りまとめ、6月末の事前協議で決定する。またNETIS案件は、7月初めに予定している土木部積算・施工管理等基準検討委員会(基準検討委員会)で審査、承認されれば第1号の登録ブランドが誕生する。

と間に合わない(技術管理室)と、反響の大きさに驚いている。

民間が開発した新技術や新工法は、施工実績がないと県工事への導入は困難な上、企業の申し入れに対しても統一的な採用基準がなく、各発注機関にゆだねられているのが実情。登録制度を確立することで、県が発注するすべての工事を対象に、適応可能な技術については各発注機関が積極的に採用する方針。

基準検討会で審査する案件

- ▽材料 廃プラスチック利用アスファルト舗装材「エコラス」
- ▽工法 標準貫入試験自動記録装置「勘太」
- ▽機シン

- ク・フジイ(松江市)
- ▽工法 無線式地盤変位測定器「のび太」
- ▽機シン
- ク・フジイ(松江市)

- ▽工法 無水掘工法ロックアンカー工、ロックボルト工における削孔システム
- 機山重組(浜田市)